

## 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 8 日

所属	商経学部	職名	専任講師	氏名	中尾 将人
研究課題	最適通貨圏理論に関する理論的分析				
研究キーワード	最適通貨圏理論, ユーロ, 景気循環	当年度計画に 対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連する SDGs項目	10.人や国の不平等をな くそう	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究では、「ケインズ動学を用いた景気循環の安定性の観点から最適通貨圏条件を考察することで、最適通貨圏理論の枠組みを再構築する」ことを課題とした。そしてその課題達成のために、ケインズ動学の観点から最適通貨圏条件を整理することを目的とした。特に、ユーロ共同債と ECB の金融政策の影響に焦点を当て、これらが景気循環の安定性にどのように影響を与えるかについて分析した。</p> <p>しかしながら、これらをテーマとした研究についてはコロナ禍の影響もあり、当初の計画通り研究が進まなかった。そのため、今後もこのテーマを引き続き研究する予定である。</p> <p>一方で、変動相場制下の小国経済を対象とした研究については一定の成果を得た。中尾 (2022) では、現代の世界経済における貿易戦争による経済の開放度の変化が、変動相場制下の小国経済の景気循環の安定性に与える影響を考察した。その結果、変動相場制下の小国経済は国際的な資本移動の度合いが高い場合は経済開放度が小さくても景気循環が安定化することを明らかにした。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等 (査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)</p> <p>【論文 (査読あり)】</p> <p>【著書・論文 (査読なし)】</p> <p>中尾 (2022) 変動相場制下の小国における経済開放度が景気循環に与える影響, 千葉商科大学論叢, 第 59 巻, 第 3 号, pp.225-231</p> <p>【学会発表等】</p> <p>研究発表</p> <p>2021 年 4 月 "Purchase of government bonds by a supranational central bank: its impact on business cycles" (With T. Asada), 経済動学セミナー (京都大学大学院経済学研究科公認セミナー), 京都大学</p> <p>書評</p> <p>"Stephanie Kelton, The Deficit Myth: Modern Monetary Theory and the Birth of the People's Economy, New York: Public Affairs, 2021, pp. xviii+329," The Review of Keynesian Studies, Vol.3, pp.235-242</p> <p>3. 主な経費</p> <p>研究に必要な書籍や PC の購入に使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)</p> <p>科学研究費助成事業 若手研究 2021 年度~2023 年度, 「EU 共同債による景気循環の同期性への影響と最適通貨圏「メタ条件」の充足」 課題番号: 21K13292</p>					

(本文は 2 ページ以内にまとめること)